

■ 平成27年度の経営改善の取組状況について

1 平成27年度決算について

第3次経営改善計画の初年度である平成27年度は、患者数は計画値よりも入院で4,263人、外来では1,564人下回りました。

収益については、収益合計では計画値より89,848千円下回りました。内訳としては、入院収益は、患者数が計画に届かなかったため、計画値から162,879千円下回り、外来収益は、診療単価が見込みを上回ったため、計画値を22,208千円上回りました。医業外収益は、一般会計からの繰入金が見込みを上回ったため、66,034千円上回りました。

費用については、費用合計では計画値より110,171千円下回りました。内訳としては、医業費用は、給与費、材料費、経費が見込みより抑えられたことから、計画値を101,933千円下回り、医業外費用は、保育所運営費及び消費税損税に係る雑損失が見込みを下回ったため、計画値を6,338千円下回りました。この結果、計画で見込んでいた141,985千円を20,323千円上回る162,308千円の純利益を生じました。

(※「3 経営改善計画に対する平成27年度決算の状況」を参照)

2 平成27年度的主要な取組

(1) 医師の確保

岩手医科大学をはじめ関係機関との情報交換や連携、医師の紹介業者の活用等により、医師確保に努めました。

(2) 地域包括ケア病棟の増床

平成27年10月に地域包括ケア病棟を40床から60床に増床し、地域で求められている医療機能の確保と充実を図りました。また、リハビリテーションが必要で長期に入院が必要な方に地域包括ケア病棟を利用いただくことなどにより、在宅復帰支援や退院後のQOLの向上に努めるとともに診療単価の向上にも結びました。

(3) 高度医療機器等の活用

CT、MRIの積極的な活用を継続し、高速な検査、高精細な画像の提供による医療の高度化、検査単価の向上を図りました。また、地域の医療機関に対し、当該装置の活用による検査紹介のPRに努めました。撮影件数は前年度に比べCT装置が2.1%減の4,169件、MRI装置が7.2%増の3,253件となりました。

(4) 健診の充実

疾病の予防や早期発見・早期治療のための各種健診事業を実施しました。市の成人検診においては、受診者数は延べ9,615人となりました。

人間ドックは、団体割引を行うなど受診者の増加に努めました。件数は、前年度に比べ一泊が23件増の150件、日帰りが1件減の182件となりました。

脳ドックは192件となり、このうち72件は一泊人間ドックとの併診でした。また、件数は前年度に比べて28件の増加となりました。

また、胃がん検診で平成28年度からX線検査と内視鏡検査の選択制となることから、経鼻内視鏡を導入するなど、その準備に努めました。

(5) 他の医療機関等との連携強化

市内の開業医や介護施設等約530施設に対し、地域医療連携だより（年4回発行）を送付するとともに、開業医や介護施設を訪問（医療機関は8回22機関、介護施設は10回34施設）し、連携の強化に努めました。

また、440医療機関に診療案内（6月に発行）を送付し、当院の診療内容や医師の専門性等の情報を提供するとともに、紹介率の向上に努めました。

(6) 経営評価委員会による経営改善計画の点検・評価

医療に関する有識者等で構成した経営評価委員会を1回開催し、経営改善計画の進行状況等について点検・評価を行いました。

(7) その他の取組

- ① 広報、ホームページの活用による医療情報等の積極的提供
- ② 外部コンサルタント等の活用
- ③ 「市立病院デー」の開催
- ④ 出前講座等地域研修会への講師派遣
- ⑤ 未利用地の活用に向けた予定事業者との協議の実施
- ⑥ 接遇向上委員会を中心とした職員の接遇意識の向上
- ⑦ クリニカルパス委員会によるパス大会の開催とパス適用率向上の取り組み
- ⑧ がん患者・家族支援チームの設置
- ⑨ NST等チーム医療の積極的推進
- ⑩ 認定理学療法士、専門管理栄養士などの資格取得による資質向上
- ⑪ 精神科を神経精神科に名称変更するなど認知症患者に対する対策の充実